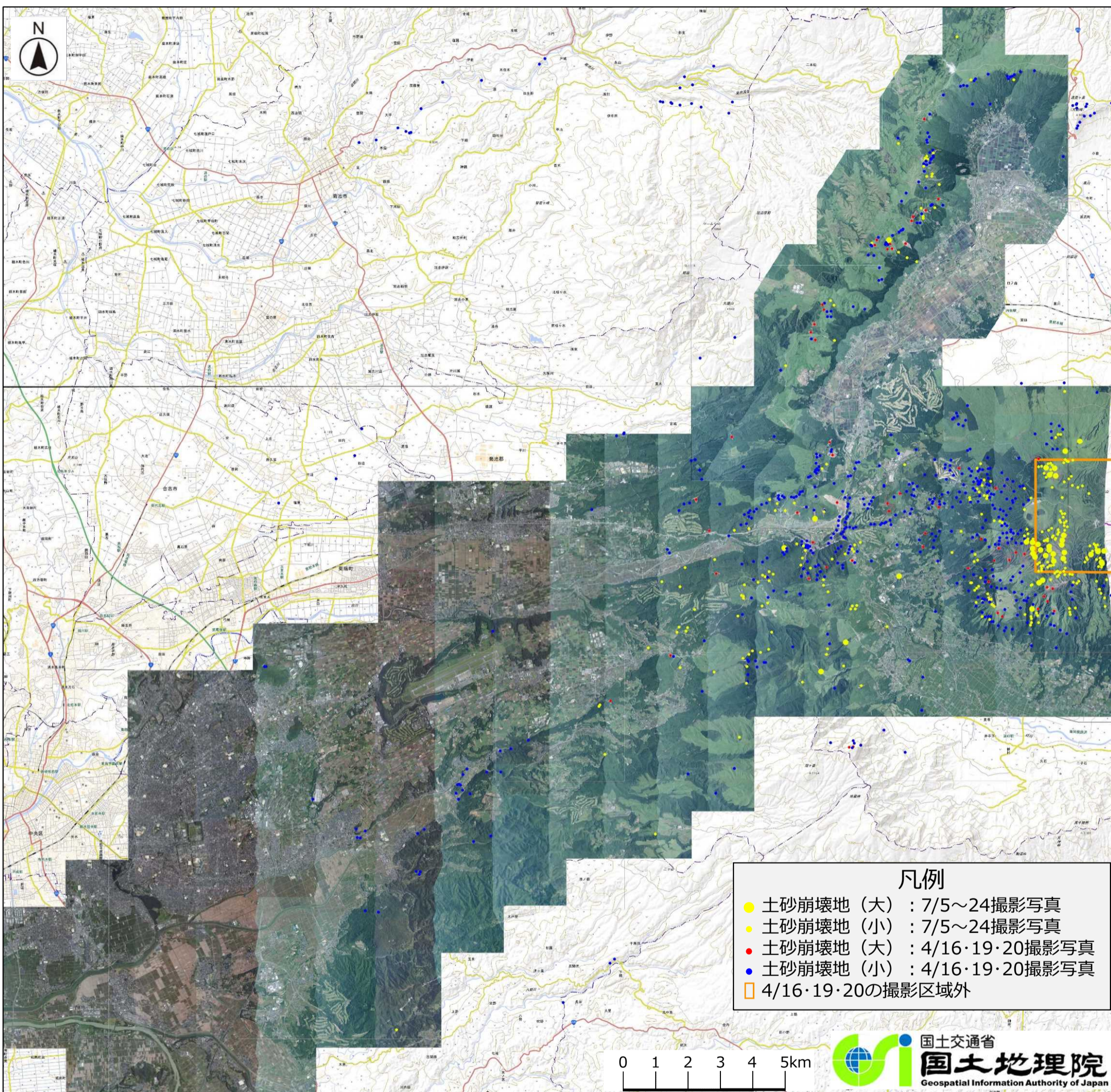


平成28年熊本地震・空から見た（航空写真判読による） 土砂崩壊地分布図（阿蘇・熊本地区）



- この地図は国土地理院が地震後に撮影した航空写真（4月16日、19日、20日及び7月5～24日撮影）から、地震及びその後の降雨等により生じた土砂崩壊地の分布を判読したものです（表示写真は7月5～24日撮影）。なお、現地踏査は実施しておらず、実際に崩壊のあった箇所でも把握できていない部分があります。
- 土砂崩壊地は、急傾斜地の崩壊、地すべり、土石流を1つの項目にまとめて表現しています。
- 土砂崩壊地（大）はおおむね1ヘクタール（サッカー場）以上、土砂崩壊地（小）はおおむね0.1ヘクタール（50mプール）～1ヘクタールのものを表しています。
- 土砂崩壊地の中心付近を丸で表しており、土砂崩壊地の形状を表現しているわけではありません。
- 崩壊が連続的に発生しているものを複数箇所として示している場合があります。
- 崩壊の発生を確認して、表記しているものであり、保全対象との関係などから土砂災害ではないものも含まれる場合があります。
- 今後の地震活動、降雨等により、土砂崩壊地の箇所数が増加する可能性があります。